

満洲～終戦～引揚げ、そして帰れなかった人たち——

# 中国残留邦人等への 理解を深める集い、in 栃木



満洲時代 開拓団住居の前で(千振開拓農業協同組合提供)

満洲時代「千振」創刊号表紙(千振開拓農業協同組合提供)

那須岳

写真撮影:浜口タカノ/(公財)中国残留孤児保護基金提供

## 第1部 中国残留邦人を生んだ歴史的背景

**映像** 『満蒙開拓の真実』  
(満蒙開拓平和記念館制作)

**講演** ひもとき、つなげる、とちぎ  
戦後開拓の歴史



DVD『満蒙開拓の真実』より

栃木県立博物館 学芸部人文課 (歴史)  
特別研究員

小柳真弓氏



あなたの隣にいる『帰国者』のこと  
知っていますか？

現在の中国東北部(旧満洲)には終戦まで多くの日本人が住んでいました。宇都宮餃子が中国東北部由来であることが知られているように、栃木県に引き揚げてきた人も少なくありません。一方、戦後の混乱で家族と生き別れ、残留した子供や女性達は日中国交正常化(1972年)後、中高年となってようやく祖国へ戻れたのです。しかし帰国後の生活は、言葉の壁や文化の違いに苦しむ日々でもありました。県内にも多くの帰国者と家族の方々が暮らしています。戦後80年を迎えつつある今、負の歴史を繰り返さないためにも、かれらの物語に耳を傾けてみませんか？



千振開拓の碑(栃木県那須町)

## 第2部 「中国残留邦人等の体験と労苦を伝える戦後世代の語り部」講話

「ある中国残留邦人とその家族の人生」

【その1】

栃木県出身のある残留孤児について  
神山英子

【その2】

開拓団のある残留孤児について  
泉田俊英



講話風景

2024年

10/6(日)

13:00～16:00(12:30開場)

**入場無料** 定員100名

※「戦後世代の語り部」とは、高齢化する中国・樺太(サハリン) 帰国者の忘れ去られようとする歴史の記憶を語り継ごうと、首都圏中国帰国者支援・交流センターの3年間の育成研修に参加し、委嘱を受けた人達です。

会場：ライトキューブ宇都宮 (宇都宮駅東口交流拠点施設) 大会議室 201 宇都宮市宮みらい 1-20

主催：首都圏中国帰国者支援・交流センター

後援：栃木県 宇都宮市 栃木県国際交流協会 宇都宮市国際交流協会 下野新聞社

参加希望の方は事前にお申し込みください。申込方法は裏面に！